

トップリーグ雑感（反則過多）
 プレーオフトーナメントファイナル
 パナソニック ワイルドナイツ vs サントリーサンゴリアス^(※1)

前日にグラウンドの雪も取り払われ、天候も回復した秩父宮ラグビー場でトップリーグ今シーズン最後のゲームが行われました。

今シーズン最後のゲームでありながら両チームの反則が 23（パナソニック 8、サントリー15）でした。この反則について考えてみました。

10.3 REPEATED INFRINGEMENTS	10.3 反則を繰り返すこと
<p>(a) Repeatedly offending. A player must not repeatedly infringe any Law. Repeated infringement is a matter of fact. The question of whether or not the player intended to infringe is irrelevant. Sanction: Penalty kick</p> <p>A player penalised for repeated infringements must be cautioned and temporarily suspended.</p> <p>(b) Repeated infringements by the team. When different players of the same team repeatedly commit the same offence, the referee must decide whether or not this amounts to repeated infringement. If it does, the referee gives a general warning to the team and if they then repeat the offence, the referee cautions and temporarily suspends the guilty player(s). If a player of that same team then repeats the offence the referee sends off the guilty player(s). Sanction: Penalty kick</p> <p>A penalty try must be awarded if the offence prevents a try that would probably otherwise have been scored.</p> <p>(c) Repeated infringements: standard applied by referee. When the referee decides how many offences constitute repeated infringement, the referee must always apply a strict standard in representative and senior matches. When a player offends three times the referee must caution that player.</p> <p>The referee may relax this standard in junior or minor matches, where infringements may be the result of poor knowledge of the Laws or lack of skill.</p>	<p>(a) 反則の繰り返し：いずれのプレーヤーも、競技規則のいずれにも繰り返し違反してはならない。反則を繰り返す場合には、繰り返す事実が問題であり、反則を意図しているかどうかは問題ではない。 罰：ペナルティキック</p> <p>そのような反則の繰り返しで罰を与えられたプレーヤーに対して、レフリーは警告するとともに、一時的退出を命ぜなければならない。また、そのプレーヤーが同様の反則や類似の反則を繰り返した場合には、そのプレーヤーを退場させなければならない。</p> <p>(b) チームによる反則の繰り返し：同一チームの複数のプレーヤーが同じ違反を繰り返す場合には、レフリーはそれが反則の繰り返しに相当するかどうかを決めなければならない。もし相当する場合には、チーム全体に対して注意を与えて、その後にもまた違反を繰り返した場合には、反則を犯したそのプレーヤーに警告を与えて、一時的退出を命じる。その後にもまた同じチームのプレーヤーが違反を繰り返した場合には、レフリーは反則を犯したそのプレーヤーに退場を命じる。 罰：ペナルティキック</p> <p>反則によって、得点されうる可能性があったトライが妨げられた場合、ペナルティトライが与えられる。</p> <p>(c) レフリーの適用基準：「反則の繰り返し」に相当する反則の数を決めるにあたっては、レフリーは、代表試合や上級チームの試合には常に厳格な基準を適用し、三度目には警告を与えなければならない。</p> <p>上記以外や未成年者の試合では、競技規則に対する無知と技術の未熟さにより反則が起ることがあるので、より寛大な基準を適用してもよい。</p>

<p>21.9 CONTRIVED INFRINGEMENTS AT THE PENALTY KICK</p> <p>If the referee believes that the kicker's team has contrived an infringement by their opponents, the referee does not award a further penalty but allows play to continue.</p>	<p>21.9 ペナルティキックにおける反則の誘発</p> <p>ペナルティキックにおいて、相手側の反則が、キッカー側の故意のたくらみによるものであるとレフリーが確信した場合には、レフリーは重ねて罰を科さずプレーを続行させる。</p>
--	--

IRB 発行 “2013 年競技規則” より

これらの競技規則の条項を読み直してください。Laws は間違いなく反則が少ないことを志向しています。新聞記事を読んで首をかしげました。15 人全員が一つづつ反則をしたということでしょうか。15 種類の反則をしたというのでしょうか。一方レフリーはどのように考えたのでしょうか。

トップリーグのファイナルともなれば「日本代表選手」もいるでしょうし、「日本を代表するトップチーム」であることは間違いありません。「自分たちのプレーが行き過ぎた」という内部の声もスポーツ新聞に見られました。

Laws を守ることということは Laws の意義を生かしてラグビーを楽しむということです。激闘を讃える気持ちに変化はありませんが、残念なゲーム内容でした。

2014.02.15

西川 義行